

一八九



えいがか—えいこ

**Table 1**

© 2009 Blackwell Publishing Ltd *Journal of Internal Medicine* 265: 103–111

LE

こと。——ろく「永世祿」(名)明治維新の際、十

族に下賜された無期限の家職及び賞典。

えいせい(一)「衛生」(名)「天」の(一)「せい」は「星」の

周囲を運ぶ「天體」の(名)「地」に對する月の(名)。

えいせい(二)「衛生」(名)「身」の健康を計り、疾

病を豫め撲滅すること。一「衛生家」(名)。

衛生を専らする人。一「衛生學」(名)。

衛生に關する事項を研究する學。醫學の一部に屬

する。一「衛生行政」(名)。

「政」衛生の指示する所に従ひ、國民の健康を保全

し、國家の生存條件を充つとせんとする爲に、國家及

び自治團體に與する權力行使、保健行政と醫

藥行政の二とする。一「衛生局」(名)。

内務省の一局で、衛生に關する事務を取扱ふ

所。一「くわあひ」(名)「衛生組合」(名)「汚物

の掃除及び清浄方法、清浄方法傳染病の豫防、救治

に關する事項を處理する爲に、町村内又は一定

の區域内に設けられた公共組合。一「しけん」(名)

「衛生試験所」(名)「内務大臣の管轄に屬し、衛生

上諸種の試験を行ふ所。一般國民の依頼に應じて

試験分析等をなす所。東京と大阪とにある。

えいせん「永銭」(名)「えいらくせん」(名)「穀類に

代へて納める錢。

えいせん「額川」(名)「地」支那河南省許州臨潁縣

にある川で、支那の鹽土許由、帝堯が位を譲らう

といふ話を聞いて耳を洗つたといふ傳説のある川。

えいせん「營繕」(名)「建築物を造ることと修繕す

ること。一「營繕費」(名)「營繕に要する費」。

えいそ「永祚」(名)「ながくさいはひ」(名)「ながいよ

ひ」(名)「えいせい」(名)「永祚」(名)「永祚」(名)

後世にまでも聞えぬ程の大風。一「詩歌」(名)「詩歌

えいそう「(散藻)」(名)「天子のおつくりになつた

えいそう「(詠草)」(名)「和歌の草稿」。

えいそう「(營倉)」(名)「軍兵營内にある、陸

軍總司令による犯規者を入れる建物。又、そこに押

込められる罰。重懲罰を輕懲罰とある。

えいそう「(影像)」(名)「繪畫又は彫刻にあらは

した神佛又は人のすがた。ふすがた。にすがた。

えいせい「えいふ

えいどう「(映像)」(名)「光線の屈折又は反射に

よつて物像のあらはれること。又、其の物像。

えいどう「(營造)」(名)「家屋、倉庫などとする

えいどう「(營造)」(名)「營造物」(名)「けん

ちくぶ」(名)「建築物」。

「法」學校、病院、鐵道、道路、公

同、圖書館、博物館等の如く、國家又は公共團體が直

接公衆の利益を計る目的の爲に作る建築物。一「ち

えいざく「永積」(名)「ながくつづくること。ながも

えいざく「(映帶)」(名)「うつりあふこと。反映」。

えいたい「(永代)」(名)「永世」として。一「き

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、寺で毎

月の忌日に永久に行ふ佛供養のこと。一「永代講

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、毎年一同寺院で信者

に説教すること。一「しやくち」(名)「永代借地」(名)

「法」永代借地權を決定した土地。一「しやくちけ

えいたい「(永代)」(名)「法」日本政府が所有する

土地を、條約國の國民又は法人が永久に使用收益

し、又は處分し得る權利。實際の効力は、土地所有

權と同じである。一「しやうもん」(名)「永代證文

えいたい「(永代)」(名)「永代有りの證文。一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

えいたい「(永代)」(名)「佛」の爲に、一「とき

いて秀でること。

えいたん「(容歌)」(名)「天の御なげき」。

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいたん「(詠歌)」(名)「聲を長く引いて歌ふこ

えいとく「(贏得)」(名)「利を得ること。まうけること。

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する

えいとく「(感動)」(名)「感動動作を起さうとする時に發する



えうおーえから

一九五















戸に開いてから、慶應三年(二五二七)の瓦解に至るまで二百六十五年間の稱。徳川時代。

えとじゅんれい(江戸順禮)(名)昔、江戸の富家や茶屋などから、衣服を着飾って廟禮の姿をして市中の寺院を拜した。

えとじょう(江戸城)(名)江戸にあって、城で、長祿元年(一一七)舟道溝が始めて築造し、天文十八年(一一六二)徳川家康の居城となり、慶長十一年(一一六六)より工を起し寛永十三年(一一九六)大完成、本城(本丸)の九三の丸、西城(西丸)の吹上の三部とした。明治初年以來、西城は皇居となつた。

えとじょう(江戸店)(名)江戸の商店とのえとじょう(江戸店)江戶淨瑠璃(名)江戶に起つた淨瑠璃。あつた。

えとすま(江戸褌)(名)江戸城の大奥から始まつたからいふ衣服の前身と狂の要衣に斜に襷袢を染め出したもの。もうよう

えとすま(江戸褌)(名)前條に同じ。

えとすま(江戸褌)(名)江戸時代に、大名の家臣が江戸の都府で勤務した。

えとせ(江戸拉)(名)江戸で染めたもの。

えとせ(江戸拉)(名)江戸で染めたもの。

えとせ(江戸拉)(名)江戸で染めたもの。

えとせ(江戸拉)(名)江戸で染めたもの。

えとせ(江戸拉)(名)江戸で染めたもの。

えとせ(江戸拉)(名)江戸で染めたもの。



(江戸褌)

とし、老中として禁中の事務、側衆、高家等を支配せしめ、若年寄に旗本八萬石を總管せしめ、又寺社町奉行、三奉行を置き、又、諸役人を監視する爲に目附を置き、老中、若年寄の耳目とした。

えとばら(江戸地)(名)江戸時代の刑名。追放の一、江戸市内に居住を許さぬこと。

えとばん(江戸番)(名)えとすま(江戸褌)。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。

えとひき(江戸引)(名)江戸引。



(カキビト)

事務を掌つた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。

えとむら(江戸桃)(名)江戸で染め初めた。



(きな)

えなんじ(淮南子)(名)文選淮南子の淮南子。老子の説に基づいて、治亂興亡を人事の盛衰を記載した書。二巻。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。

えに(縁)(名)ゆかり。ちなみ。えん(古語)ゆかり。えん(金語)。



(だいに)







「て」爲帽子(兒)名。鳥籠親から爲帽子の紐を掛け、馬に束柱で打つ針又は紐に掛る爲の紐をつけたる物。一は爲帽子子名。(名)元服の時、幼名をめて別けけた名で、爲帽子親が、自分の二字を與へたもの。實に、

子直衣(名)立爲帽子をかぶり、直衣を着た妻妾の子の、つつ一は爲帽子爲子始(名)元服爲帽子の部分。

エポック [Epoch] (名)時代。時期。紀元。世紀。エポックマーク [Epoch-mark] (名)新時代を示す。一「メーキー」[Epoche-maker] (名)新時代を創する。(名)新紀元を開く。一制約的。

エボナイト [Ebonyite] (名)[化]弾性ゴムに硫黄を加、加熱して作れた物で質堅く、黒色と青褐色あり、薬品に對する耐酸性ある。電氣絶縁體又及び煉や電氣の器械などに用ひる。硬化した膜。

エホラット(佛 Brauerette) (名)女子の右腰の上上につける飾。一肩章。


えほん(手本) 繪本(名)繪本の素紙。繪のし手本。一ばんすけり(繪本番附)(名)芝居番附の名。狂言の表紙。一一本の外題を記したものと俳優の名を記入し、裏紙に脚本の題名と俳優の名を記入し、裏紙に脚本の外題を記したもの。

えほんたいこうき(繪本太閤記)(名)寛政九、十年吉田五郎が、太閤記の挿入で出した書。寛政九、十玉堂出版し、享保二年發售。七篇文化元年、幕府は絶版を命じた。

えほんたいこうき(繪本太功記)(名)繪本太閤記に基づいて近松門左衛門が、近松千葉軒の合作したもので、十段目尼ヶ崎の段は最も有名である。寛政十一年大國齋竹村初稿。

えま(繪馬)(名)祈願又は稱謝の爲に、馬の繪を描いて、神社・佛前に奉納する額で、馬匠は遣馬を奉代りに奉納すること。

(名)神社・佛前に納す



(馬)繪

[illegible]

「エメラルド」Emerald(メナムル)の頭文字  
 として、男根の隠語(英語)Manly 又は「Manhood」  
 の頭文字として、月經隠語。  
 エメチン Emetin(名)「催吐薬、吐根より得  
 られる一種のアルカロイド。他の嘔吐強迫薬  
 として、エメチン」といふ藥學に用ひる。酸鹽エメチン。  
 えむしむろ(名)「繪延」花模様などな織り出し  
 たむしむろ。はなむし。

エメラルド Emerald(名)「緑緑色の光澤  
 ある寶石。綠玉。翠玉。」イググリーン  
 Emerald-green(名)「寶石エメラルドのやうな  
 明い綠。」

エメリー Emery(名)「鐵鋼玉石の一種。粒狀  
 で、黒灰又は黒色。金剛石より硬度を下するが、  
 粉末として研削用に供される。一ペーパー  
 [Emery-paper](名)や一ペー紙。  
 えも(動)あそびに(名)やも(古語)  
 えも(名)あそび(名)「笑ふ」自動、ハロ。あむ  
 (名)むの古語。

エモーション Emotion(名)「情緒、感情、感  
 應」エモーション 繪文字(名)「Freiburg」北米イ  
 アンダ、土人の間に行はれた、商業上の儀式を以  
 て觀念を表象した文字。文字教誨の一過程を示すも  
 の。繪寫文字。

えも(名)ゆゆ(名)「繪文結」(名)「れも」とゆ(名)  
 えもの(稱物)(名)「得處の道具。目に通した  
 武器。」「てもの」最得意とする物事。  
 えもの(産物)(名)「漁撈や狩獵など」た鳥獸、魚  
 えもののがたり(名)「繪物語」(名)「槍のはりた  
 繪本」。

えもり 柄簾(名)「傘の柄の上部から雨の漏るこ  
 そもん」(衣紋)(名)「衣服装束の着方。着物の  
 裾をかけること。」か(衣紋家)(名)「青、紫  
 種で、衣服の制する着用法のたゞ家。」かが  
 み(衣紋號)(名)「衣紋を繕ふに用ひる號」に用  
 き(衣紋袖)(名)「細長い、細い線を縫うに用  
 ひる繕。」一かけ衣紋袖(名)「短い袖の中央



スリム—スリム

スリム—スリム

スリム—スリム

スリム—スリム













なり、清帝の退位後、臨時共和政府を組織し正式大總統となり、次いで自ら帝位に就き、民國五年大正五年夏、年五十八。(一八八五)

えんせき 鹽析(名) 〔化〕の作用。水には溶解するが、鹽類の溶液には溶解し難い物質の溶液中に、鹽類を加えて分離させること。

えんせき 無石(名) 〔地〕山から出る石。玉に似て價值のない石。まがし。

えんせき 宴席(名) さかしの席。

えんせき 筵席(名) しきの。座席。

えんせき 圓石(名) まるい石。一を千仞の山に轉ず(句) 孫子兵勢篇の句。勢が急激で、抑止することのできぬ勢。

えんせき 遠戚(名) ちすちの遠い親戚。

えんせき 演説(名) 公衆の前で、自分の主義主張や意見を陳述すること。一かい(句) 演説會(名) 演説の爲の會合。

エンゼル(Angel) 名 天使。天宮。天使のやう。

えんせん 沿線(名) 線路に沿つた所。

えんせん 鹽泉(名) 鹽類を多量に含んだ泉。

えんせん 源泉(名) 源泉。一えんるんせん。

えんせん 圓潭(名) 深いひそむ。

えんせん 圓癖(名) 癖。日癖性の癖癖で、圓形の小斑を呈する。せにむ。

えんせん 遠遊(名) 遠く離れた所から大砲などを撃つあつち。

えんせん 燭然(名) 燭にうつり笑ふさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

えんせん 宛然(名) 宛々。そっくりさま。

焼を助け、又、植物性の色素を褐色する作用があるから、漂白の原料又は殺菌劑として用ゐる。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 鮓書(名) えんしの古語。一あわ。

えんそ 遠村(名) 遠い村。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんそ 遠祖(名) 遠い祖先。とほつて。

えんたん 鉛丹(名) 〔化〕炭酸鉛を焙じ、空氣中で熱する際に生ずる赤色結晶性の粉末で、鐵材の錆止し、又、繪具やフッソ、硝子の製造、電氣工學に用ゐる。一組の相續。結核の話。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。

えんたん 縁境(名) 縁取り。縁取り。縁取り。



えんのーえんほ



二二五

えんほん 法(國本) 名 定價一圓の一の證書。大正十五年の秋「現代日本文學全集」が改訂社から出たのが行われた。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)名 Māra 閻魔。閻魔の時地獄に住む十八の將官と八萬の惡卒とを従へて、地獄におちる人間の生前の善惡を審判し懲罰して、不善を防止する大王。その像はもと普通の佛像に似て左手に人頭をつけた旗を持ち、右手に乗ったものを捕らへ、近時は、支那畫で惡鬼の相をなすものを用ひる。(俗に閻魔王が惡者の舌を抜くと云ふ) 一、佛説に基つて、こゝに「心の人まの尊稱。一、おがね(閻魔王) 名 佛(梵)えんまのやうなこは、顔しかめつら。二、おろき(閻魔蜂) 油胡蘆(名) 名 動植物の一種。體長約二五粒。黒褐色。大なる頭を有す。觸角は絲狀で、雄は晩秋に美聲を發する。豆莢・煙草・結等を食する。一、閻魔卒(名) 佛(梵)閻魔に命を受けて罪人を斬る卒。惡鬼卒。

一、だいおう(閻魔大王) 名 佛(梵)閻魔の尊稱。一、ちやう(閻魔) 名 佛(梵)閻魔が生徒の罪惡を責めとめておく帳簿。一、巡査が罪科を調べて留めおく手帳。一、どう(閻魔堂) 名 佛(梵)えんまを祭つてある堂。一、のちまう(閻魔廳) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。

えんま 閻魔(名) 名 佛(梵)えんまが亡者生前の罪惡を取調べる法廷。一、もうて(閻魔庭) 名 佛(梵)毎年十一月十六日と七月十六日を閻魔の壽日と稱し、又、地獄の釜の蓋が開く日と傳へて、佛教信徒が閻魔堂に參詣すること。一、ら(閻魔羅) 名 佛(梵)えんま。



(くきいめん)

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

えんも 燕毛(名) 宴會の席次の年齢順に定めらる。

ること。

えんりより(遠慮)名。遠いさきさきのおも

人に対して。深い考。●人に對して控目あること。●

者に對して謹慎すること。●江戸時代に、身分ある

者が微罪により、又は他人の罪に坐して謹慎の意を

表し、門を閉て籠居した。●一なければ近

憂あり(名)●論語微公篇の句。目前の安きに傾

れて、遠き將來の事を考へなければ、必ず目前に迫る

心配が生ずる。

えんりよう(災涼)名。あつさと涼し

●勢力の衰えんと衰へ。

えんりようかん(延遠館)名。東京濱

館の北門にあつた館。慶應二年、濱野殿が海軍奉行

の所管となつた時築造されたもの。

えんりん(園林)名。園の林。●あひ園蔵。

えんるい(縁類)名。結婚・縁組によるつづ

えんるい(縁類)名。化えん。●一せん(縁

類)名。●地金類。硫黄ナトリウム。硫黄マナ

シウム等の鹽類を含んだ銀泉。群馬縣の伊香保箱

根の塔ノ澤・神岡の熱海等の銀泉は之に屬する。

えんれい(延齡)名。壽命を延ばすこと。●そ

う(延齡草)名。●種百合科の多年生草本。溪

根直に第一で直立し、

葉は廣卵形で三葉生

ず。五月間、紫藍色

の萼片のみで無数の花

を開く。●たん(延

齡丹)名。●鶴山山城

人延壽院末期、築た江戸時代の廻



(草 齡 延)

お(を)

お 五十音圖、あ行の第五位に位し、お段の韻とな

る。古の後部を稍、低くして發する。うよりも聲を稍

お 五十音圖、わ行の第五位で、お段の韻とな

る。昔は「う」を從音「お」を主音とした、緩音で

あった。●道の草體。

おを助詞(名)●名詞について他動詞の目的をあらはす

「物」買ふ。●自動詞の動作が行はれる場所を

表はす語。「家」去る。●事意外なる意義をあら

はす語。白濁の色は、つゝいかにして、我の木の葉を

ちぢにせむらん。●語調を整へる無意義の語。「八

重垣作るその八重垣」見つづ行かん。

お 驚いた時の發聲。●「の意を表はす語。

お 御接頭(おほの約)或語に冠して尊敬、鄭重

を「唯」應答の聲。はい。

お 男(男)名。男子。なつ。

お 天(天)名。なつ。●一人前の男。

お 雄(雄)名。動物は種子を有するもの。植

物では雄蕊のみを有するもの。●(古語)

お 麻(麻)名。●種ある。からむし。●あま

かむしの葉皮繊維からつくた絲。

お 緒(緒)名。●細長い絲條物。絲又は絲とな

る。●(尾)名。●尾馬、鰻、鰻魚等の後端から長く伸

び出たもの。●(尾馬)名。山の裾の延びた處。

お 後方に長く延びた部分。なほり。する。●(語

お 峰(峰)名。●山の高い所。●おか(岡)古

お 感動の聲。や。よ。

●物を観しんでやまじいひあらはす語。「聲」。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

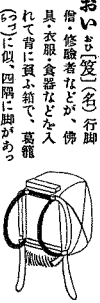
おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。

おあい(汚穢)名。●穢。けがれた。なほり。



〔笈〕

おい(笈)名。●行脚

僧・修験者などが、佛

具・衣服・食器などを入

れて背に負上り、萬體

てに似、四脚に脚があつ

て、開閉する。●(笈)名。

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略

●(負)名。●背に負ふこと。●ひきうけ

おい(追)名。●追ふこと。●追はるるの略